スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

奈良県五條市

自 治 体 名 ： 奈良県五條市
担 当 課 名 ： 生涯学習課
電 話 番 号 ： 0747-22-4001（内822）

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	292.02 ㎢
人口	26,840 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	535人
部活動数	26 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	五條市部活動地域移行推進協議会 令和6年6月設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	五條市中学校部活動の地域クラブ活動への移行に関する基本指針、地域クラブ活動ガイドライン 令和6年7月策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

・本市は、奈良県の南部に位置し、人口は26,840人で過疎地域の指定を受けている。

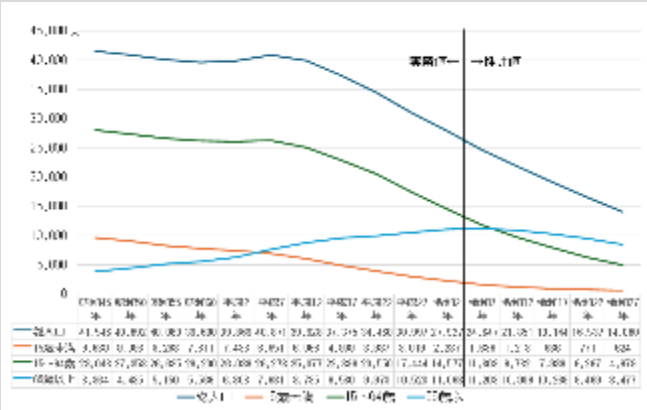
・市内には市立中学校が3校あり、一部の中山間地域を有する中学校校区は広大で、さらに、公共交通機関が無いため、スクールバスの運行を行っている。また、当市は少子化により年々生徒数も減少し、令和6年5月調査の生徒数は535名である。

・部活動の地域移行の取組は、地域指導者が確保できた競技・部門から、各学校及び部活動顧問と協議を重ね進めた。

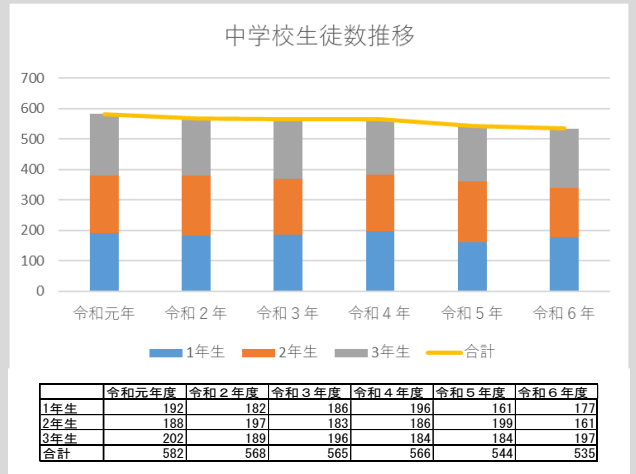
【地域移行を進める上での課題】

・当市は、急激に人口減少が進み、指導者として活躍を期待する生産年齢人口が少ないなか、どのようにして指導者を確保するかが課題となっている。また、市内全域で運営せざるを得ない活動もあり、地理的な課題として、活動場所が通学している学校でない場合、活動場所までの移動手段も課題となる。

・運営面では、財源の確保、受益者負担、金銭管理など今後も課題が出てくると考えられる。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
※本資料の人口の出典である国勢調査は、住民登録とは関係なく現在市内に住んでいる人や世帯を対象に調査を行うため、住民登録の人口とは一致しない。
※平成12年以前のデータは、以降の合併に合わせて「五條市・西吉野村・大塔村」を合計したもの



	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
1年生	192	182	186	196	161	177
2年生	188	197	183	186	199	161
3年生	202	189	196	184	184	197
合計	582	568	565	566	544	535

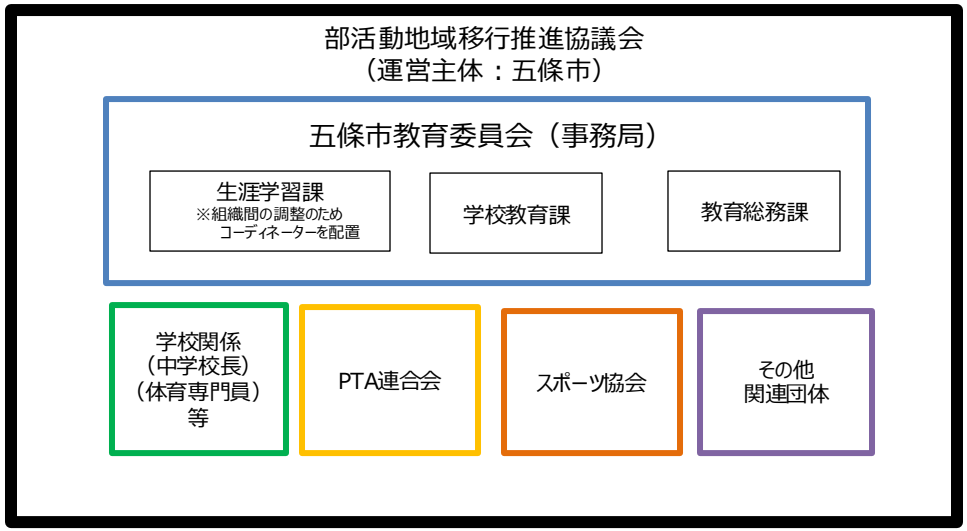
出典：五條市教育委員会事務局　※毎年度5月1日時点調査

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

- 市民に対しての周知、啓発活動
- 部活動地域移行推進協議会、人材バンクの運営
- 参加者募集や地域クラブ活動の日程管理
- 学校との調整

◉首長部局

・行政職員の兼職・兼業の新制度の設計
・活動場所の提供　※首長部局所管の施設

年間の事業スケジュール

令和６年５月	・部活動地域移行推進協議会準備委員会
令和６年６月	・部活動地域移行推進協議会設立、第1回会議
令和６年７月	・五條市中学校部活動の地域クラブ活動への移行に関する基本指針及び地域クラブ活動ガイドライン策定 ・五條市地域クラブ活動指導者人材バンク設置
令和６年９月	・教職公務員及び五條市教育委員会事務局職員の地域クラブに係る兼職・兼業等の承認・許可に関する要綱制定
令和６年１０月	・実証事業に向けての学校との協議開始
令和６年１１月	・地域クラブ予定競技の顧問の意向調査
令和６年１２月	・実証事業対象の部員及び保護者へ趣旨説明（文書配布） ・地域クラブ活動参加者募集
令和７年１月	・実証事業開始（３活動）
令和７年２月	・実証事業終了（２活動） ・アンケート調査（終了した２活動）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	56人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
軟式野球クラブ	五條市	軟式野球	月４回程度	日中の活動（活動場所の都合による）	1年 9人 2年 4人	令和７年 １月～２月	五條中学校	６ 人	２ 人 （内、兼務２ 人）	無料	中体連：部活動 その他：地域クラブ
五條東卓球クラブ	五條市	卓球	月４回程度	日中の活動（活動場所の都合による）	1年 5人 2年 8人	令和７年 １月～２月	五條東中学校	４ 人	２ 人 （内、兼務２ 人）	無料	中体連：部活動 その他：地域クラブ
五條東バレーボールクラブ	五條市	バレーボール	月４回程度	日中の活動（活動場所の都合による）	1年 6人 2年 2人	令和７年 １月～３月	五條東中学校	４ 人	２ 人 （内、兼務２ 人）	無料	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●実施なし

2.実証内容と成果

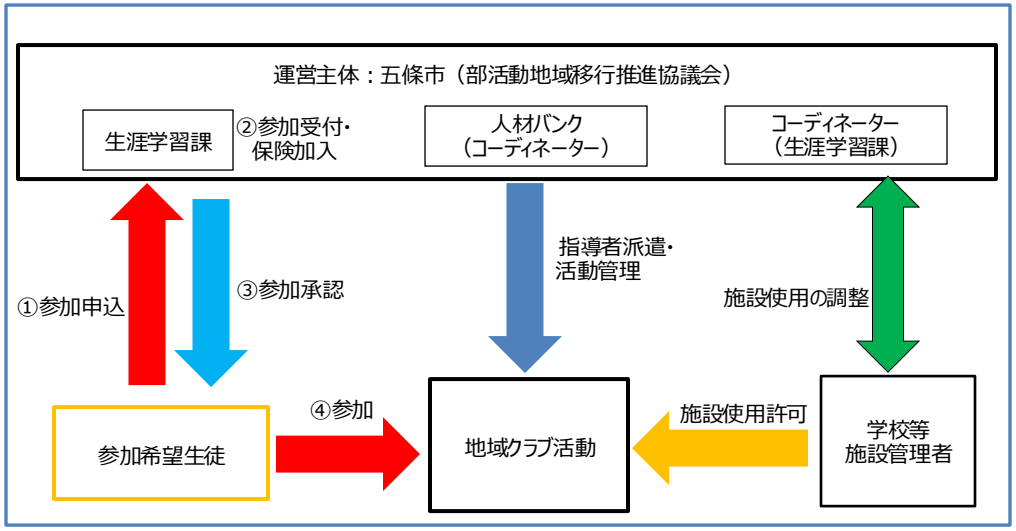
スポーツ庁

主な取組例

●五條市地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、卓球、バレーボール
運営団体名	五條市
期間と日数	野球、卓球：　１月～２月 バレーボール：　１月～３月 活動上限時間３０時間
指導者の主な属性	人材バンク登録者 ※教員等の兼職・兼業を含む
活動場所	現行活動を行っている中学校
主な移動手段	自主参集
１人あたりの参加会費等（年額）	無料
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年 （６５歳以上　1,200円/年）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●コーディネーター　1名

役割：学校との調整、活動計画、指導者の活動管理を行う

●運営補助者　１　名

役割：保険加入手続き、指導謝金の支払等の事務手続きを行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

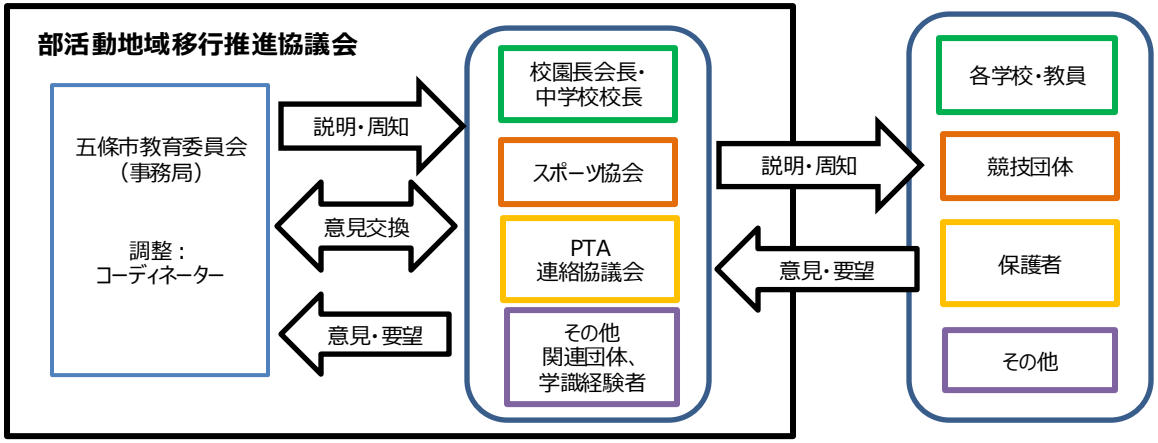
取組事項

学校、保護者、スポーツ協会、教育委員会事務局をはじめ、関係団体で五條市部活動地域移行推進協議会を設置し、部活動の地域移行に関する指針、ガイドラインの制定などを行い令和8年度以降の部 活動の在り方についての協議を行った。

地域指導の確保のため、人材バンクを設置し、また、教育委員会事務局では、地域クラブ活動指導に係る教員等の兼職・兼業の承認や許可に関する要綱の新設を行った。

取組の成果

協議会の構成を幅広く編成したため、学校や関係機関に対する説明や啓発に向けた取組がなど運営を比較的スムーズに進めることができた。また、校園長会やＰＴＡ連絡協議会、スポーツ協会や学識経験者等の参画を得たことで、幅広く意見を集約することができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

・部活動地域移行推進協議会及び人材バンクの運営
・令和8年度以降の部活動地域移行についての周知活動
・組織加盟団体からの意見・要望についての調整
・地域の競技指導者の情報収集、人材バンク登録についての啓発活動
・実証事業に向けて学校との調整や部活動顧問、地域指導者とのマッチング

今後の課題と対応方針

過疎地域ゆえに指導者の確保が最重要課題で、今後の対応方針は、人材バンク登録者に知り合いを紹介してもらうことや、通学圏内に大学等が少ないが、県内大学等に出向いたりすることを考えている。

学校部活動に対して、保護者や教員をはじめ社会全体の意識改革が今後の課題

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・市のホームページに人材バンク登録申請書などをダウンロードできるページを作成した。また、スポーツ協会加盟団体に候補者の推薦を依頼し、対象者には趣旨説明を行った

・人材募集のチラシを作成し、人が集まる場所での配布や掲示、さらには、通学圏内の大学を訪問し、指導者募集ポスターの掲示を依頼した

・各中学校を訪問し、教職員に対して市の部活動移行の方針や人材バンク、兼職・兼業についての説明を行った

・退職した教職員に、過去に指導したことのある方を紹介してもらうなど、積極的に人材発掘に取り組んだ

人材バンクの人数

17名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	6名
30代	5名
40代	2名
50代	1名
60代以上	3名

登録者属性

・会社員
・スポーツ関連会社社員
・教職員（講師含む）
・市職員
・大学生
・元教員
・元市職員

登録動機

・スポーツ協会の推薦
・恩師・知人の紹介
・教育委員会からの依頼
・募集に応募

種目

・軟式野球
・卓球
・バレーボール
・ソフトテニス

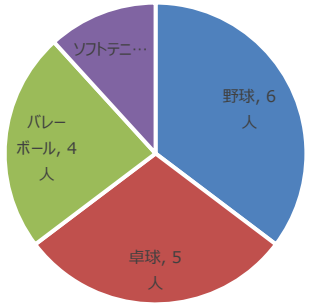
資格有無

特に資格の有無は求めていないが、現在人材バンクに登録している指導者は、普段から指導を行っていたり、教職経験者、スポーツ少年団の指導者などで、子どもを指導する最低限の知識を有している

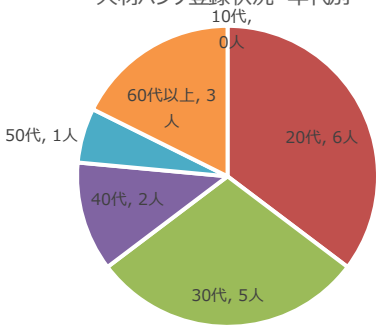
取組の成果

・スポーツ協会の加盟団体の代表に、会員の人材バンク登録を依頼した結果5名の登録があった
・退職教員に指導者の紹介を依頼した結果３名の人材バンク登録があった
・教職員への説明会後には、教員職員からも人材バンクへの登録があった

人材バンク登録状況　競技別



人材バンク登録状況　年代別



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

地域移行後の地域クラブの活動は、学校部活動が行われている学校施設を使用する想定をしており、今の学校施設の設備や備品などで地域クラブ活動ができるかの確認を行った。

また、生徒が普段活動している学校以外で活動することによる課題等がないかの検証を行った。

取組の成果

一部の参加生徒は、普段の学校部活動と違う場所での活動となったが、普段の休日部活動についても保護者が送迎していることから特に問題が無いことがわかった。

グラウンドや体育館の使用については、普段の部活動においても施設の使用時間帯や日時を、顧問同士が協議していることから、今後も同様に学校や指導者同士が協議することで活用ができることが確認できた。

地域クラブが学校の体育館やグラウンドを使用することによるセキュリティの問題については、校舎内と施設が切り離されていることから、地域クラブ活動として使用許可に問題ないことが確認できた。（運動部のみ）

【例】原則、毎週土曜日の午前・午後を隔週交代で体育館を使用しているが、バレーボールが第2土曜日に練習試合で一日体育館を使用するため、顧問同士の協議により卓球は翌日の日曜日に振替て練習を行う

△月	時間	○○中学校体育館	
第1土曜日	ＡＭ	卓球	練習
	ＰＭ	バレーボール	練習
第2土曜日	ＡＭ	バレーボール	練習試合
	ＰＭ	バレーボール	
第2日曜日	ＡＭ		
	ＰＭ	卓球	練習
第3土曜日	ＡＭ	卓球	練習
	ＰＭ		
第4土曜日	ＡＭ	バレーボール	練習
	ＰＭ	卓球	練習

今後の課題と対応方針

今後、校舎の教室を使用する文化部の活動が出てきた場合のセキュリティ対策が課題となってくる。その場合については、校舎内の重要な箇所への立入りを制限できるよう校舎の改修や、セキュリティエリアの変更などで対応する必要がある。

また、学校備品の使用については、使用に関するルール作りや、備品の更新について担当課との協議を行う。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和8年度から、休日の中学校部活動を地域クラブ活動へ移行することを目指し、諸条件を整えるための組織や、関係文書、要綱や規約の施行に向け取組を進めてきた。この中で、中学校部活動の改革に対する説明や方針、ガイドライン、各種要綱等を市のホームページに掲載するとともに、啓発チラシを作成し、人が集まる公共施設等に掲示するなど広く市民に周知することに努めた。

地域移行に伴う情報の提供や学校現場の状況を把握するため、コーディネーターが随時学校に足を運び、学校長との連絡調整に努めた。しかし、様々な考えをもつ教員組織の中で、学校総体として同一方向を目指すことの難しさを痛感している。

生徒や保護者、教員に対して啓発を進める中では、複数ある中学校に対してその説明の機会や時間設定が難しく、一斉に伝えることができなかったため、学校間での認識のずれが生じたことが反省として上げられる。

●成果の評価

地域移行を進めるうえで、協議会をいち早く立ち上げることができたことで、中学校部活動の現状や状況を共有することができ、地域移行に関する方向性を示すことができたことは有効であったと捉えている。

指導者を確保するため、人材バンクを設置し登録者を募ったが、十分な成果は得られなかった。スポーツの愛好家はいるが、指導までには至らないと考えてる人が多くいるということがこの取組をとおして認識することができた。

実証事業に関しては、指導者の確保と学校、部活動顧問との調整に難航し、当初計画していたよりも短期間となったが、参加した生徒や指導者からは「参加してよかった」や「実施してよかった」との肯定的な意見を聞くことができたことは成果があったと捉えている。

●今後に向けて

山間部を抱える当市では、活動場所への移動に関して、公共交通機関を利用する手立てがなく、自己責任において校区外への自転車等での移動や保護者に送迎を願うなど、移動手段も大きな課題を抱えている。また、地域移行に伴う受益者負担の発生に対して、保護者の理解を得られるよう丁寧な説明が求められ、誰もが参加しやすい会費等の設定を今後の検討課題としている。

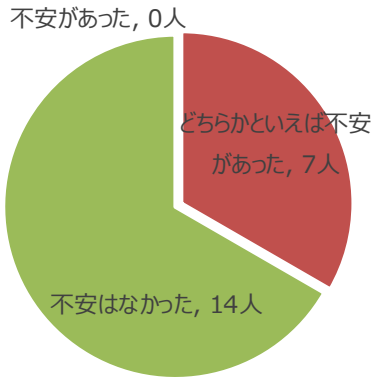
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

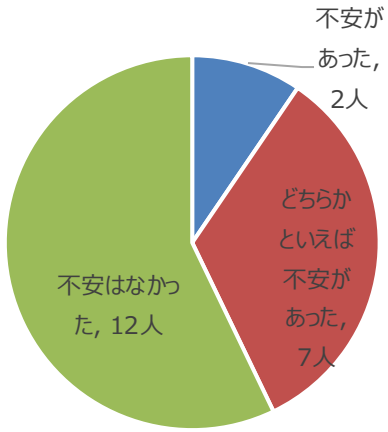
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

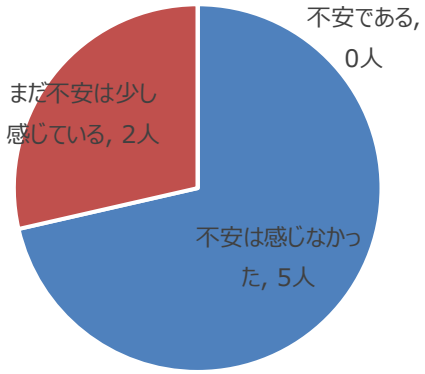
Q．学校の先生（顧問教師）以外の人が指導することに対して不安はありましたか？（生徒）



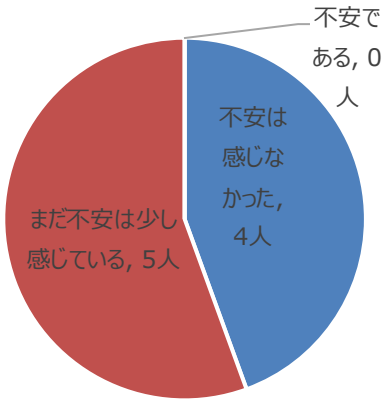
Q．学校の先生（顧問教師）以外の人が指導することに対して不安はありましたか？（保護者）



Q．上記で少し不安や不安と回答した人は、活動に参加してみて不安はどうでしたか？　（生徒）



Q．上記で少し不安や不安と回答した人は、活動に参加させてみて不安はどうでしたか？　（保護者）



●参加者の声

保護者

・何かトラブルがあった場合はどの機関が入ってくれるのか。
・細かなところが分からないまま進めていかれても親としては困る。
・平日のみと休日のみの参加生徒がいたとき、どのようにして休日の試合に参加させるのか。
・チームワークはどのようにするのか。
・良い面もたくさんあると思います。子どもたちの視野が広がり、甘えも減ると思います。平日と休日お活動内容が部活動における目標や課題とが合うためには先生方と指導員の方との間でコミュニケーションがとられることが大切と思います。

指導者（兼職・兼業の教員）

・教員の負担軽減につながることは嬉しいことではあるが、生徒指導上のトラブルが発生した時の対応や事後指導に不安がある。
・システムがまだ確立できていない部分が多いので、逆に負担になっている教師がいる。

指導者（一般指導者）

・月1回程度の指導なら可能ですが数回となると難しい。
・負担金の管理方法。送迎も含め保護者の協力体制。
・活動場所や道具、その他諸費用を学校や教育委員会や保護者に協力してもらうことができたら地域移行も可能と思う。

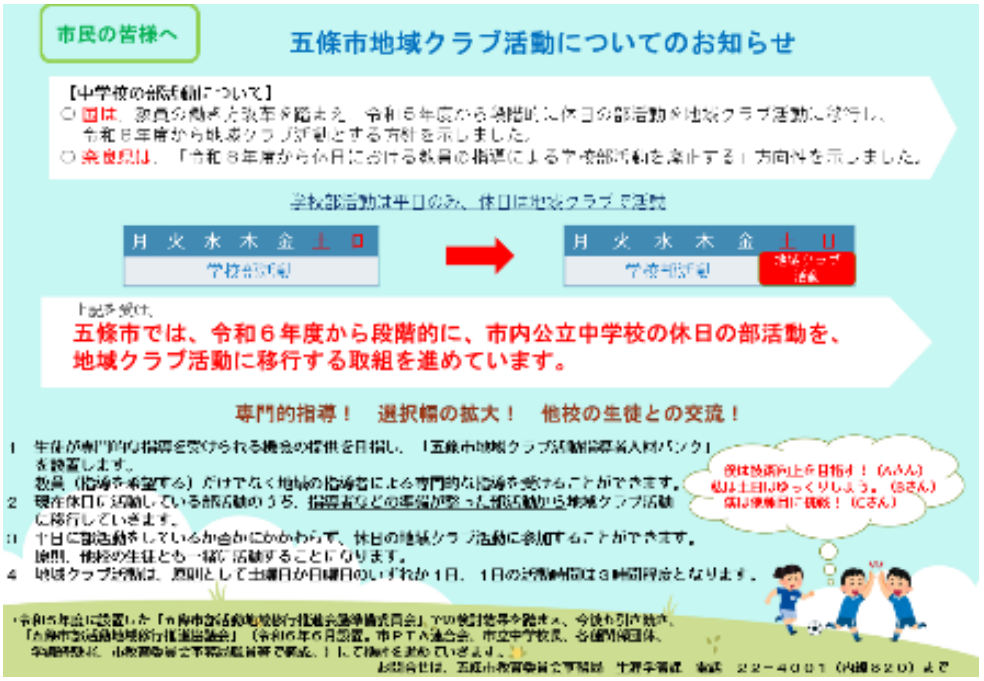
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

チラシの配布やホームページで周知を行ったことによって、令和8年度から奈良県においては、教員の指導による休日の学校部活動が廃止され、地域クラブ活動となることについては、アンケートの結果でもあるように概ね認知されている。

また、今回の実証事業後のアンケートにおいて、生徒・保護者とも地域クラブ活動に移行されることについては、受益者負担についての不安があるが、概ね肯定的な回答が多かった。



【市民向け啓発チラシ】

出典:五條市部活動地域移行推進委員会

【結果】

質問１　休日の学校での部活動は、令和８年度から、今回実施したような地域クラブ活動に移行していくことを知っていましたか。

項　目	野 球	卓 球
知っていた	7名　77．8%	9名　75．0%
知らなかった	1名　11．1%	1名　8．3%
聞いたことはあるがよく分からない	1名　11．1%	2名　16．7%

質問２　今回の活動は、楽しかったですか。

項　目	野 球	卓 球
楽しかった	7名　77．8%	12名　100%
楽しくなかった	0	0
どちらでもない	1名　11．1%	0

質問３　今回の休日の地域クラブ活動に満足していますか。

項　目	野 球	卓 球
満足	6名　66．7%	9名　75．0%
やや満足	1名　11．1%	2名　16．7%
やや不満	1名　11．1%	0
不満	1名　11．1%	0
どちらでもない	0	1名　8．3%

質問４　学校の先生（顧問教師）以外の人が指導することに対して不安はありましたか。

項　目	野 球	卓 球
不安があった	0	0
どちらかといえば不安があった	4名　44．4%	3名　25．0%
不安はなかった	5名　55．6%	9名　75．0%

質問５　上記４で(1)や(2)と回答して人は、活動に参加してみて不安はどうでしたか。

項　目	野 球	卓 球
不安は感じなかった	3名　75．0%	2名　66．7%
まだ不安は少し感じている	1名　25．0%	1名　33．3%
不安である	0	0

質問６　今後も、地域クラブ活動に参加していこうと思いますか。

項　目	野 球	卓 球
参加したい	4名　44．4%	10名　83．3%
どちらかといえば参加したい	4名　44．4%	2名　16．7%
あまり思わない	0	0
参加したくない	1名　11．1%	0

質問７　地域クラブ活動に参加して感じたこと（思ったこと）は何ですか。（複数回答可）

項　目	野 球	卓 球
専門性の高い指導が受けられた	1名　11．1%	8名　66．7%
自分自身の技術が向上した	7名　77．8%	10名　83．3%
学校の先生がいたので安心した	5名　55．6%	6名　50．0%
学校よりも自由に活動ができた	2名　22．2%	2名　16．7%
指導者が多くいたので細かく指導が受けられた	4名　44．4%	4名　33．3%
その他	1名　11．1%	1名　8．3%

参加生徒のアンケートとりまとめ（抜粋）

【実証事業参加後アンケート結果　（参加生徒）】

出典:五條市部活動地域移行推進委員会

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【地域指導者の指導による準備体操】



【パソコンを活用した動作確認】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

協議会設置、検討開始、人材バンクの設置 ▶ **学校現場との調整** ▶ **生徒、保護者への説明** ▶ **令和７年１月～３月** **地域クラブ活動実証事業の開始**

令和６年５月～

委員構成

校園長会、中学校校長、ＰＴＡ連合会、スポーツ協会、学識経験者、教育委員会事務局

経過

準備委員会で、関係者と地域移行に向けて方向性等の確認と、意見交換を行い、運営主体である推進協議会を設置し、今後の部活動地域移行の検討を開始

成果

・移行に関する基本方針、地域クラブ活動のガイドラインの制定
・人材バンク設置
・各分野間の意見交換

令和６年８月～１１月

●各学校の部活動状況の調査を行い、活動者数、顧問の人数等を把握

●スポーツ協会等へ中学生の指導可能者の照会等を行い人材バンクへの登録を依頼

●一定数の指導者がいる競技について、学校長、部活担当顧問を交え地域移行に向けての調整を行った

令和６年８月～１１月

●小学校４年生から６年生及び、全中学校の生徒・保護者へは、令和８年度から休日の学校部活動が地域クラブ活動へ代わることについては、チラシを学校から配布してもらうことで周知を行った

また、特に今年度の実証事業に対象となった部活動の参加生徒・保護者に対して事業の詳細を文書で送付することで説明周知を行い、実証に向けての合意を取ることとした

※特に保護者の方からは、質問や意見・苦情などはなかった

令和７年１月～３月

学校（学校長・顧問）、生徒・保護者、指導者それぞれの合意のもと、令和８年度からの実施体制となる地域クラブ活動の形を実証事業として行った

令和７年２月時点で、大会への参加方法や、チーム編成について、県中体連等の大会主催者と調整必要な課題が見えてきた

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

